

令和6年12月16日

京都市文化市民局

担当：文化芸術都市推進室文化芸術企画課

電話：075-222-3119

令和6年度京都市文化功労者の表彰

京都市では、毎年、永年にわたり本市の文化の向上に多大な御功労をいただいた方々を「京都市文化功労者」として表彰しています。

この度、令和6年度の文化功労者を表彰し、12月23日(月)に表彰式を行います。

なお、この制度は昭和43年度に創設し、令和5年度までに計315名の方々を表彰しています。

1 被表彰者 (敬称略・五十音順)

| | | | |
|------|------------|-----------|--|
| あおき | としろう | | |
| 青木 | 敏郎 | (洋画) | |
| いとう | くにたけ | | |
| 伊藤 | 邦武 | (学術 (哲学)) | |
| えり | こうけい | | |
| 江里 | 康慧 | (仏教彫刻) | |
| かたやま | くろうえもん | | |
| 片山 | 九郎右衛門 (十世) | (能楽) | |
| こんどう | たかひろ | | |
| 近藤 | 高弘 | (陶芸) | |
| まつい | ちえ | | |
| 松井 | 智恵 | (現代美術) | |
| みずぐち | かずお | | |
| 水口 | 一夫 | (歌舞伎) | |
| れいぜい | きみこ | | |
| 冷泉 | 貴実子 | (和歌) | |

2 表彰式

(1) 日時

令和6年12月23日(月) 午前11時～

(2) 場所

京都市役所 本庁舎4階 正庁の間

(3) 出席者

被表彰者及び同伴者

| | |
|---------|-------------------|
| 西村 義直 | 京都市会議長 |
| 平山 よしかず | 京都市会副議長 |
| 井上 よしひろ | 京都市会文教はぐくみ委員会委員長 |
| 土方 莉紗 | 京都市会文教はぐくみ委員会副委員長 |
| やまね 智史 | 京都市会文教はぐくみ委員会副委員長 |
| 篠原 資明 | 京都市文化功労者審査会委員代表 |
| 松井 孝治 | 京都市長 |
| 吉田 良比呂 | 京都市副市長 |
| 山本 ひとみ | 京都市文化市民局長 |

(4) 次第

開会

来賓紹介

表彰状授与

挨拶

松井 孝治

京都市長

祝辞

西村 義直

京都市会議長

祝辞・功績紹介

篠原 資明

京都市文化功労者審査会委員代表

被表彰者挨拶

閉会（閉会后、記念撮影）

青木 敏郎

あおき としろう (77歳)
洋画／京都市左京区在住



【功績】

昭和48年、東京造形大学美術科絵画専攻卒業。欧州へ留学して油彩画の伝統的な古典技法を学び、フェルメールやレンブラントなど多くの古典絵画に接し模写を行った経験から、細部にこだわることなく全体を大きく捉え、情感に満ちたヒューマンで緻密な空間表現を追求する。一つの物を描写することは、それを取り囲む空間を表現して物と物との関係性を描くこと、そしてその関係性を表現することは光を表現することと捉え、秩序ある美的な組み合わせにより物を一層密に表現した画風は、日本の写実表現を代表する画家の一人として高く評価されるとともに、多くの洋画家に影響を与えている。50年もの長きにわたって一貫して古典の面影を探求し続けており、今なお精力的に制作している作品を通じて、古典絵画の継承にも取り組んでいる。

＜略歴＞

- ・京都市出身
- ・東京造形大学美術科絵画専攻卒業（昭和48年）
- ・欧州へ留学、ロイヤル・アカデミー（ベルギー）に在籍し、油彩画の伝統的技法、デュサンの研究やフェルメール等の作品を模写（昭和48～53年）
- ・京都芸術短期大学非常勤講師（昭和54～56年）
- ・京都市立芸術大学非常勤講師（昭和55～57年）
- ・京都精華大学非常勤講師（昭和55～57年）
- ・欧州に滞在、ハンス・ホルバインの作品の模写や作品制作を行う（昭和59～61年）
- ・京都造形芸術大学（現 瓜生山学園京都芸術大学）大学院通信課程非常勤講師（平成26～27年）

＜現在＞

- ・無所属

＜主な受賞歴等＞

- ・東京セントラル美術館油絵大賞展 佳作賞（昭和56年）
- ・安井賞展 入選（昭和57～59年）
- ・小磯良平大賞展 入選（平成4年）
- ・両洋の眼展 河北倫明賞（平成19年）

＜主な活動等＞

- ・【個展】（山総美術、東京セントラル絵画館／京都、東京／昭和57、59、63、平成3、4年）
- ・美しすぎる嘘 現代リアリズム絵画展（日本橋三越本店など／東京など／平成4、6、9、12年）
- ・【個展】（日本橋三越本店／東京／平成5、6、10、15、20、26、令和2年）
- ・輝くメチエ 現代油彩画の写実・細密表現（奈良県立美術館／平成6年）
- ・現代絵画の断面（京都文化博物館／平成6年）
- ・洋画の展望－具象表現を中心に－（福井県立美術館／平成7年）
- ・想の会（高島屋／大阪、東京、京都／平成12、14、16、18、20年）
- ・桃花の会（高島屋／東京、大阪、京都、愛知、神奈川／平成16、18、20、22、24年）
- ・【個展】青木敏郎の世界展 光と影－古典への憧憬（諏訪市美術館／長野／平成21年）
- ・セレニテの会（三越伊勢丹／大阪、東京、福岡、愛知／平成23、25、27～令和2年）
- ・共鳴／主張する個性～現代洋画家10人～（諏訪市美術館／長野／平成24年）
- ・Timeless（高島屋／京都、東京、大阪、神奈川／平成28、31～令和元、4、6～7年）
- ・創と造 現代日本絵画・工芸新作展（美術倶楽部／東京、京都、石川、大阪、愛知／平成28～令和元年）
- ・日本画・洋画－巨匠展（日本橋三越本店／東京／平成30～令和4年）
- ・【個展】青木敏郎 自選展（ギャラリーヒルゲート／京都／令和4年）
- ・第5回「私の代表作」展（ホキ美術館／千葉／令和5～6年）
- ・【個展】青木敏郎展～古典の面影を模索すること50年～（三越／東京、福岡、愛知／令和6年）

＜代表作等＞



《秋の恵み ザクロ・カリン・各種の器》（令和2年）



《秋の賀茂川－川面に映る草木》（令和4年）

伊藤 邦武

いとう くにたけ (75歳)
学術（哲学）／京都市左京区在住



【功績】

京都大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学後、昭和55年、スタンフォード大学大学院哲学科修士課程修了。昭和60年に文学博士を取得後、京都大学などで教壇に立ち、京都大学教授、京都大学大学院文学研究科長、龍谷大学教授などを務める。現在は京都大学名誉教授で、日本学士院の会員でもある。

アメリカで発祥、発展した哲学・思想で、近現代の哲学における潮流であるプラグマティズムの研究から出発し、ヨーロッパの哲学、とりわけフランス認識論の歴史的研究や、宇宙論と経済学に関する科学哲学的研究に力を注ぐ。日本におけるプラグマティズム研究を代表する哲学者として、これまでに『パースのプラグマティズム』、『パースの宇宙論』、『プラグマティズム入門』などの著作や数多くの学術論文を発表し、アメリカ哲学や宇宙哲学の分野で顕著な功績を挙げた。

<略歴>

- ・神奈川県出身
- ・京都大学大学院文学研究科博士課程単位修得退学（昭和53年）
- ・スタンフォード大学大学院哲学科修士課程修了（昭和55年）
- ・京都大学文学博士取得（昭和60年）
- ・京都大学文学部教授（平成7～8年）
- ・京都大学大学院文学研究科教授（平成8～26年）
- ・京都大学大学院文学研究科長（平成18～20年）
- ・龍谷大学文学部教授（平成26～30年）
- ・龍谷大学文学部特任教授（平成30～令和2年）

<現在>

- ・京都大学名誉教授
- ・日本学士院会員

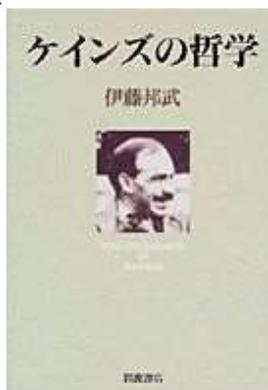
<主な受賞歴等>

- ・和辻哲郎文化賞（平成20年）
（『パースの宇宙論』（岩波書店／平成18年））
- ・紫綬褒章（平成23年）
- ・瑞宝重光章（令和4年）

<主な活動等>

- ・『パースのプラグマティズム 可謬主義的知識論の展開』（勁草書房／昭和60年）
- ・『人間的な合理性の哲学 パスカルから現代まで』（勁草書房／平成9年）
- ・『ケインズの哲学』（岩波書店／平成11年）
- ・『偶然の宇宙』（岩波書店／平成14年）
- ・『パースの宇宙論』（岩波書店／平成18年）
- ・『宇宙を哲学する』（岩波書店／平成19年）
- ・『ジェームズの多元的宇宙論』（岩波書店／平成21年）
- ・『経済学の哲学 19世紀経済思想とラスキン』（中央公論新社／平成23年）
- ・『物語 哲学の歴史 自分と世界を考えるために』（中央公論新社／平成24年）
- ・『九鬼周造と輪廻のメタフィジックス』（ぶねうま舎／平成26年）
- ・『プラグマティズム入門』（筑摩書房／平成28年）
- ・『フランス認識論における非決定論の研究』（晃洋書房／平成30年）
- ・『宇宙はなぜ哲学の問題になるのか』（筑摩書房／令和元年）
- ・『世界哲学史』（1～8、別巻）（編著／筑摩書房／令和2年）
- ・『宇宙の哲学』（講談社／令和6年）

<代表作等>



『ケインズの哲学』
（岩波書店／平成11年）



『プラグマティズム入門』
（筑摩書房／平成28年）

江里 康慧 へり こうけい (81歳)

仏教彫刻／京都市左京区在住



【実績】

仏師の江里宗平氏の長男として京都市に生まれる。昭和37年に京都市立日吉ヶ丘高等学校美術課程（現 京都市立美術工芸高等学校）彫刻科を卒業後、松久朋琳・宗琳師のもとで修行し、国宝や重要文化財などの優れた作品を模刻して研鑽に励む。その後独立して父に師事し、本格的に仏像制作に専念する。願主、施主、作者（仏師）が三位一体となって仏像を造り上げる過程を大切に、常に「一刀三礼」の心構えでこころの宿った仏像の制作に全身全霊を注いできた。これまでに阿弥陀如来立像、不動明王立像、地藏菩薩立像など、多種多様な仏像を京都をはじめ全国の名刹に奉納、延べ千体以上の仏像を手掛け、現代を代表する仏師として高い評価を受けている。仏像制作と並行して龍谷大学、同志社女子大学などで教壇に立ち、後進の育成にも尽力した。平成15年京都府文化賞功労賞を受賞。

本名 江里 康則（へり やすのり）

＜略歴＞

- ・京都市出身
- ・京都市立日吉ヶ丘高等学校美術課程（現 京都市立美術工芸高等学校）彫刻科卒業（昭和37年）
- ・仏師の松久朋琳・宗琳師に入門（昭和37年）
- ・独立し、父の江里宗平氏に師事（昭和40年）
- ・江里康慧と号する（平成2年）
- ・龍谷大学非常勤講師（平成3～12年）
- ・同志社女子大学嘱託講師（平成8年）
- ・龍谷大学客員教授（平成13～27年）
- ・東京藝術大学大学院非常勤講師（平成16～17、20年）

＜現在＞

- ・平安佛所代表

＜主な受賞歴等＞

- ・三千院 大仏師号（平成元年）
- ・瀧光徳寺 大仏師号（平成13年）
- ・京都府文化賞功労賞（平成15年）
- ・仏教伝道文化賞（平成19年）

＜主な活動等＞

【制作】

- ・伎楽獅子面（東大寺 大仏殿／奈良／昭和56年）
- ・不動明王立像（三千院／京都／平成元年）
- ・後白河法皇坐像（法住寺／京都／平成3年）
- ・鬼子母神倚像（唐招提寺／奈良／平成9年）
- ・阿弥陀如来立像（西本願寺 安穏殿／京都／平成20年）
- ・大権修理菩薩像 達磨大師像（永平寺／福井／平成20年）
- ・釈迦如来三尊像（鏡徳寺／茨城県／令和3年）
- ・源頼朝公像・春日厨子（令和4年）

【講演、展覧会】

- ・A MARRIAGE IN ART : THE WORK OF KOKEI AND SAYOKO ERI(ボストン美術館／アメリカ／平成20年)
- ・京の至宝Ⅱ 江里佐代子 截金の世界－宙の輝きを康慧・朋子とともに－（美術館「えき」KYOTO／令和3年）

【著書】

- ・『仏師という生き方 一刀三礼魂の息づかい』（廣済堂出版／平成13年）
- ・『仏像に聞く 鑑賞を深めるための基礎知識』（KKベストセラーズ／平成15年）
- ・『仏師から見た日本仏像史 一刀三礼、仏のかたち』（ミネルヴァ書房／令和3年）

＜代表作等＞



《阿弥陀如来立像》
（平成20年）

撮影：山崎兼慈



《釈迦如来三尊像》
（令和3年）

撮影：山崎兼慈

十世 片山 九郎右衛門

かたやま くろうえもん (60歳)

能楽／京都市東山区在住



【功績】

人間国宝の片山幽雪（九世片山九郎右衛門）氏の長男として京都市に生まれる。父及び八世観世鍔之丞氏に師事し、5歳のときに「岩船」で初シテを勤める。以降も厳しく綿密な稽古を重ねて研鑽を積み、全国各地や海外での公演にも積極的に出演、美しく繊細かつ表現力豊かな演能で見る者を魅了し、能の魅力を国内外に発信し続けてきた。

学校へ出向いての公演や能楽教室の開催、「能の絵本」の制作など、若年層に向けた能楽の普及活動や、次世代の能楽師育成に尽力するとともに、京都観世会会長、片山家能楽・京舞保存財団理事長等の要職を歴任して京都の能楽界を牽引し、現代における能楽の継承と発展に大きく貢献した。

平成15年京都市芸術新人賞、平成26年京都府文化賞功労賞を受賞。

本名 片山 清司 (かたやま きよし)

観世流シテ方

片山家当主

＜略歴＞

- ・京都市出身
- ・父・片山幽雪（九世 片山九郎右衛門）氏及び八世 観世鍔之丞氏に師事
- ・「岩船」にて初シテ（昭和45年）
- ・十世 片山九郎右衛門を襲名（平成23年）

＜現在＞

- ・公益社団法人京都観世会会長
- ・公益財団法人片山家能楽・京舞保存財団理事長

＜主な受賞歴等＞

- ・京都府文化賞奨励賞（平成9年）
- ・京都市芸術新人賞（平成15年）
- ・文化庁芸術祭新人賞（平成15年）
- ・重要無形文化財保持者（総合認定）（平成16年）
- ・日本伝統文化振興財団賞（平成19年）
- ・京都府文化賞功労賞（平成26年）
- ・芸術選奨文部科学大臣新人賞（平成27年）
- ・観世寿夫記念法政大学能楽賞（平成29年）
- ・京都市教育功労者表彰（令和5年）

＜主な活動等＞

- ・片山定期能楽会を主宰
- ・全国各地で多数の公演に出演するほか、ヨーロッパ、アメリカ、台湾での海外公演にも積極的に出演
- ・学校での能楽教室の開催、「能の絵本」の制作、能舞台のCG化など、若年層のための能楽の普及活動を手掛ける
- ・国民文化祭・京都2011で総合開・閉会式舞台プロデューサーを務める（平成23年）

【公演】

- ・新作能「媽祖-MASO-」企画・指揮・出演（京都観世会館、小田原三の丸ホール、大東文化藝術中心／京都、神奈川、台湾／令和4～6年）
- ・文化庁移転記念～京都駅ビル祝の舞台～（京都駅ビル／令和5年）

＜京都市との関わり＞

- ・京都創生推進フォーラム オープニング 舞囃子（京都観世会館／平成26年）
- ・ロームシアター京都開館記念公演・記念式典 出演（ロームシアター京都／平成28年）
- ・京都市社会教育委員（平成29～令和5年）
- ・文化庁京都移転記念式典「きょう ハレの日、」オープニング 祝舞（ロームシアター京都／令和5年）
- ・能楽チャリティ公演 出演（ロームシアター京都／平成28～令和6年）※共催：京都市、ロームシアター京都

＜代表作等＞



撮影:渡辺真也

媽祖-MASO-（京都観世開館／令和4年）



能楽チャリティ公演
～祈りよとどけ、京都より～
（ロームシアター京都／令和6年）

年齢は令和6年12月23日現在

近藤 高弘

こんどう たかひろ (66歳)
陶芸／京都市山科区在住



【功績】

人間国宝の近藤悠三氏を祖父に持ち、陶芸家の近藤潤氏の長男として京都市に生まれる。25歳のときに自らも陶芸の道に進むことを決意し、京都府立陶工職業訓練校（現 京都府立陶工高等技術専門学校）などで学びながら父に師事し、近藤家の伝統技法である染付を主体に作品を制作する。海外で開催した個展を契機として、独創的な造形表現を模索し、幾何学的・抽象的な「時空壺」シリーズを制作。金や銀、プラチナを陶に合わせる独自技法「銀滴彩」（特許取得）を編み出し、造形や彩色にとどまらない質感を表現することに成功した。従来の陶芸の枠にとられない作品は国内外で高い評価を受けており、今なお現代陶芸の第一線で活躍を続け、陶芸の新たな可能性を追求している。

平成6年京都市芸術新人賞、令和2年京都美術文化賞、令和3年京都府文化賞功労賞を受賞。

<略歴>

- ・京都市出身
- ・法政大学文学部卒業（昭和57年）
- ・京都府立陶工職業訓練校（現 京都府立陶工高等技術専門学校）修了（昭和60年）
- ・京都市立工業試験場（現 京都市産業技術研究所）修了（昭和61年）
- ・文化庁派遣芸術家在外研修員（平成14年）
- ・エディンバラ・カレッジ・オブ・アート修士課程修了（平成15年）

<現在>

- ・無所属

<主な受賞歴等>

- ・京都市芸術新人賞（平成6年）
- ・Inglis Allen Masters 賞（平成15年）
- ・京都美術文化賞（令和2年）
- ・京都府文化賞功労賞（令和3年）

<主な活動等>

- ・【個展】TAKAHIRO KONDO -New Blue & White-（スコットランド国立美術館／イギリス／平成7年）
- ・【個展】変容の刻 -Metamorphose-（パラミタミュージアム、京都芸術センターほか／三重、京都ほか／平成19年）
- ・【個展】セルフ ポートレート（伊丹市立工芸センター／兵庫／平成22年）
- ・京焼歴代展 -継承と展開-（京都市美術館／平成26年）
- ・【個展】生水-うつろいゆくウツワ-（瀬戸内市立美術館／岡山／平成28年）
- ・【個展】-手の思想-（何必館・京都現代美術館／平成29年）
- ・Kyoto : Capital of Artistic Imagination（メトロポリタン美術館／アメリカ／令和元年）
- ・アジア現代アート展（ギメ東洋美術館／フランス／令和元年）
- ・【個展】結露（東京画廊+BTAP／令和4年）
- ・【個展】Reduction（近藤悠三記念館／京都／令和5年）
- ・Transcendent Clay / Kondo: A Century of Japanese Ceramic Art（Lowe Art Museum／アメリカ／令和5年）
- ・【個展】陶芸-火から生まれる水の表象（高島屋／東京、京都、大阪／令和5年）
- ・Porcelains in the Mist: The Kondō Family of Ceramicists（ブルックリン美術館／アメリカ／令和5～6年）
- ・日本の美術工芸を世界へ 特別展「工芸的美しさの行方-うつわ・包み・装飾」（TERRADA ART COMPLEX II BONDED GALLERY、建仁寺／東京、京都／令和6年）

<京都市との関わり>

- ・京都市芸術文化特別奨励制度審査委員会委員（平成28～令和5年）

<代表作等>



《Reduction》（平成26年）



《MONO-BLUE》（令和5年）

松井 智恵 まつい ちえ (64歳)

現代美術／大阪市生野区在住



【功績】

昭和59年、京都市立芸術大学大学院美術研究科染織専攻修了。1980年代より、様々な素材で構成したインスタレーションを作り始める。インスタレーションに「寓意の容れもの」と名付け、空間と人間との関係においてヒエラルキーのない世界を求める。80年代末には階段や通路などの構造物を配して鑑賞者の身体的経験を促す作風へと変化し、90年代に入るとヴェネチア・ビエンナーレ、ニューヨーク近代美術館などの展覧会に参加して、大がかりな空間造形と微細なオブジェが融合した作品で国際的にも高い評価を得る。2000年以降はインスタレーションや映像作品を手掛けながら、それらの作品と呼応するような絵画やドローイングを描き、現在はその日に選び取った画材から素描する〈一枚さん〉シリーズの発表を続ける。個人的な記憶や啓示と普遍性を共存させ、現代に生きる人間の存在に深く関わる寓意とその現れを希求している。

＜略歴＞

- ・大阪府出身
- ・京都市立芸術大学大学院美術研究科染織専攻修了（昭和59年）
- ・京都造形芸術短期大学非常勤講師（昭和62～平成2年）
- ・インターナショナル美術専門学校非常勤講師（～平成2年）

＜現在＞

- ・無所属

＜主な受賞歴等＞

- ・京都市立芸術大学美術学部卒業展 小合賞（昭和57年）
- ・京都市立芸術大学大学院修了制作 三浦賞（昭和59年）
- ・咲くやこの花賞（平成7年）

＜主な活動等＞

- ・ヴェネチア・ビエンナーレ アペルト'90（ヴェネチア／イタリア／平成2年）
- ・日本の現代美術 1985-1995（東京都現代美術館／平成7年）
- ・Projects 57: Bul Lee / Chie Matsui（ニューヨーク近代美術館／アメリカ／平成9年）
- ・【個展】（MEM／大阪／平成12、15、19、21年、MEM／東京／平成23、26、29、31、令和3、5年）
- ・【個展】（信濃橋画廊／大阪／平成14～22年など）
- ・アートフェア「超京都」（名勝渉成園（東本願寺）／京都／平成23年）
- ・龍野アートプロジェクト2013「刻の記憶 Arts and Memories」（ヒガシマル醤油元本社工場ほか／兵庫／平成25年）
- ・【個展】平成26年春の有隣荘特別公開 松井智恵「プルシャ」（大原美術館有隣荘／岡山／平成26年）
- ・横浜トリエンナーレ2014「華氏451の芸術：世界の中心には忘却の海がある」（横浜美術館／神奈川／平成26年）
- ・【個展】a story - とんがり山（ギャラリーノマル／大阪／平成26年）
- ・ニュー・ウェイブ 現代美術の80年代（国立国際美術館／大阪／平成30～31年）
- ・【個展】Monthly exhibition by selected works（MATSUO MEGUMI + VOICE GALLERY pfs/w／京都／令和2年）
- ・関西の80年代 今、ふりかえる関西ニューウェーブ（兵庫県立美術館／令和4年）
- ・桃源郷通行許可証（埼玉県立近代美術館／令和4～5年）
- ・【個展】松井智恵全映像作品上映会（埼玉県立近代美術館／令和5年）
- ・怪談 - ラフカディオ・ハーンとの邂逅（小泉八雲記念館、京都芸術大学ほか／島根、京都ほか／令和5～6年）
- ・【個展】置き去られた鏡（ギャラリーノマル／大阪／令和6年）

＜京都市との関わり＞

- ・芸術祭典・京 造形部門「小鳥は大空を想像する」（元龍池小学校／京都／平成7年）
- ・新incubation3「On a Knife Edge - 二つの向こう岸」（京都芸術センター／平成23年）
- ・死の劇場 - カントルへのオマージュ（京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA／平成27年）

＜代表作等＞



《HIMALAYA》
（平成15年）



《HEIDI54-プルシャ》（平成26年）

水口 一夫 みずぐち かずお (82歳)

歌舞伎／大阪市北区在住



【功績】

昭和40年、同志社大学商学部卒業後、嵐徳三郎氏と出会い、歌舞伎の世界に足を踏み入れる。1970年代に東京に拠点を移し、国立劇場の青年歌舞伎や小劇場「渋谷ジャン・ジャン」で実験的な歌舞伎を演出して大きな反響を呼ぶ。その後京都に戻り、演劇企画京都劇場の公演「出雲の阿国」や「三人の京おんな」などを手掛けて評判となる。松竹株式会社に入社後、京都南座の昭和の改修をまとめた『昭和の南座 資料編（上・中・下）』の執筆、上方歌舞伎の人材育成を目的とした「松竹上方歌舞伎塾」の運営、京都南座での「歌舞伎鑑賞教室」に携わる一方、「GOEMON 石川五右衛門」や「NOBUNAGA」など数多くの新作歌舞伎を制作した。長年にわたり長浜など地域の子ども歌舞伎の指導にも当たり、歌舞伎の継承や地域振興に多大な貢献を果たしている。平成28年京都市文化賞功労賞を受賞。

劇作家・演出家

<略歴>

- ・京都市出身
- ・同志社大学商学部卒業（昭和40年）
- ・松竹株式会社関西演劇室芸文顧問（平成29～令和4年）

<現在>

- ・松竹株式会社関西演劇室所属

<主な受賞歴等>

- ・京都府文化賞功労賞（平成28年）

<主な活動等>

- ・『昭和の南座 資料編（上・中・下）』（松竹／平成4年）の執筆に携わる
- ・京都南座で「歌舞伎鑑賞教室」の構成・演出を担当（平成5～29年）
- ・「松竹上方歌舞伎塾」の運営の中心的な役割を担う（平成9年～）
- ・「湧昇水鯉滝 鯉つかみ」脚本・演出（大阪松竹座ほか／大阪ほか／平成24年～）
- ・「New OSK レビュー in KYOTO」や「レビュー in KYOTO II」の作・演出を担当（京都南座／平成19～20年）
- ・大塚国際美術館（徳島）のシスティーナ・ホールにて、「和と洋のコラボレーション」や「新作歌舞伎」をコンセプトとした「システィーナ歌舞伎」の作・演出を担当、これまでに「スサノオ susanoo」「GOEMON 石川五右衛門」「NOBUNAGA」など10本の新作を制作（平成21～令和2年）
 - 第二回システィーナ歌舞伎「スサノオ susanoo」（平成22年）
 - 第三回システィーナ歌舞伎「GOEMON 石川五右衛門」（平成23年）
 - 第十回システィーナ歌舞伎「NOBUNAGA」（令和2年）
- ・「長浜曳山まつり子ども歌舞伎」（滋賀）、「せきのみや子ども歌舞伎」（兵庫）、「まるおか子供歌舞伎」（福井）、「阿波の国子ども歌舞伎」（徳島）など、全国各地で子ども歌舞伎の指導に当たる
 - 長浜曳山まつり子ども歌舞伎 諫鼓山「名物団子嫁献立」振付（滋賀／令和6年）
 - 第21回せきのみや子ども歌舞伎 振付・指導（やぶ市民交流広場／兵庫／令和6年）
 - 第19回まるおか子供歌舞伎 振付・指導（磯部小学校／福井／令和5年）
 - 第5回阿波の国子ども歌舞伎 指導（あわぎんホール／徳島／令和4年）

<代表作等>



©松竹

第三回システィーナ歌舞伎「GOEMON 石川五右衛門」
（大塚国際美術館／徳島／平成23年）



©松竹

「湧昇水鯉滝 鯉つかみ」脚本・演出
（大阪松竹座／平成27年）

冷泉 貴実子 れいぜい きみこ (77歳)

和歌／京都市上京区在住



【功績】

藤原俊成・定家の流れをくむ和歌の家・冷泉家の二十四代為任氏の長女として京都市に生まれる。京都女子大学大学院日本史専攻修士課程修了後、国宝『古今和歌集』や冷泉家住宅など、同家に伝わる貴重な有形・無形の文化遺産を将来にわたり継承保存するため、冷泉家時雨亭文庫の設立に携わり、現在は常務理事・事務局長を務める。冷泉流歌道の指導、全国各地での和歌や年中行事に関する講演活動、『花もみぢ 冷泉家と京都』をはじめ多数の著書を発表するなど、幾世代にもわたって守り伝えられてきた伝統文化の普及振興に長年尽力するとともに、文化庁京都誘致協議会顧問、明日の京都 文化遺産プラットフォーム副会長等を歴任し、京都の文化芸術の推進及び発展に大きく貢献した。平成19年京都府文化賞功労賞を受賞。

冷泉家二十五代当主・為人夫人

<略歴>

- ・京都市出身
- ・京都女子大学大学院日本史専攻修士課程修了（昭和48年）
- ・冷泉流歌道の指導（昭和64年～）
- ・京都府教育委員会委員（平成17～29年）

<現在>

- ・公益財団法人冷泉家時雨亭文庫常務理事・事務局長
- ・京都府文化賞専門家会議委員
- ・公益財団法人金剛能楽堂財団評議員
- ・京都日仏協会会長
- ・明日の京都 文化遺産プラットフォーム副会長
- ・上京区文化振興会会長

<主な受賞歴等>

- ・京都府文化賞功労賞（平成19年）
- ・旭日双光章（平成30年）

<主な活動等>

【講演】

- ・和歌に詠まれた四季（平安神宮／京都／令和6年）
- ・冷泉貴実子が紡ぐ 四季の言の葉（京都府立京都学・歴史館／令和6年）

【著書】

- ・『冷泉家の花貝合わせ』（共著／文化出版局／昭和57年）
- ・『冷泉家の年中行事』（朝日新聞社／昭和62年）
- ・『京の八百歳 冷泉家歌ごよみ』（京都新聞出版センター／平成18年）
- ・『花もみぢ 冷泉家と京都』（書肆フローラ／平成23年）
- ・『冷泉家 八〇〇年の「守る力」』（集英社／平成25年）
- ・『和歌が伝える日本の美のかたち』（書肆フローラ／平成28年）

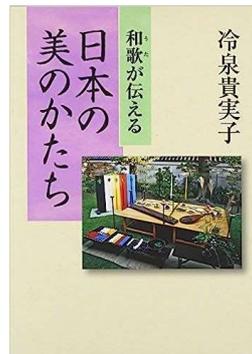
<京都市との関わり>

- ・古典の日推進よびかけ人
- ・京都創生百人委員会世話人（平成15年～）
- ・京の七夕実行委員会顧問（平成22年～）
- ・文化庁京都誘致協議会顧問（平成27～令和5年）
- ・古典の日文化基金賞選考委員会委員（令和3年～）

<代表作等>



『花もみぢ 冷泉家と京都』
（書肆フローラ／平成23年）



『和歌が伝える日本の美のかたち』
（書肆フローラ／平成28年）

令和6年度 京都市文化功労者審査会委員

*50音順、敬称略

| 氏 名 | 職 業(役 職) |
|--------|---------------------------------|
| 青木 淳 | 京都市京セラ美術館館長 |
| 天野 文雄 | 大阪大学名誉教授、能楽研究 |
| 篠原 資明 | 国立美術館運営委員会会長、京都大学名誉教授 |
| 福本 潮子 | 染美術家 |
| 三井 ツヤ子 | 声楽家、京都市立芸術大学名誉教授 |
| 森田 りえ子 | 京都市立芸術大学客員教授 |
| 山極 壽一 | 総合地球環境学研究所所長、公益財団法人京都市芸術文化協会理事長 |
| 鷺田 清一 | 京都市立芸術大学名誉教授、京都コンサートホール館長 |
| 吉田 良比呂 | 京都市副市長 |

京都市文化功労者 受章者一覧（過去3年分）

| 表彰年度 | 氏名 | 分野 |
|-----------|-------------|------------------------|
| 令和 5年度 | 今村 源 | 彫刻 |
| | 大野 克夫 | 音楽（ロック・作曲） |
| | 児玉 靖枝 | 洋画 |
| | 佐藤 洋一郎 | 学術（食文化） |
| | 西川 祐子 | 学術（文学研究・ジェンダー論） |
| | 西久松 吉雄 | 日本画 |
| | 藤山 直美 | 演劇（俳優） |
| | 八木 明 | 陶芸 |
| | 山極 壽一 | 学術（人類学・霊長類学） |
| 令和 4年度 | 小倉 淳史 | 染織 |
| | 加藤 登紀子 | 音楽（歌謡曲） |
| | 河村 和重 | 能楽 |
| | 清水 六兵衛（八代） | 陶芸 |
| | 栗木 京子 | 文学（短歌） |
| | 建畠 哲 | 学術（美術）、文学（詩） |
| | 中原 浩大 | 現代美術 |
| | 西野 陽一 | 日本画 |
| | 山部 泰司 | 洋画 |
| 令和 3年度 | 石川 九楊 | 書 |
| | 北大路 欣也 | 映画・演劇（俳優） |
| | 熊倉 功夫 | 学術（日本文化） |
| | 佐藤 文隆 | 学術（理論物理学） |
| | 沢田 研二 | 音楽（ロック・ポップス）、映画・演劇（俳優） |
| | 田端 泰子 | 学術（歴史） |
| | 藤本 由紀夫 | 現代美術 |
| | 前川 光長 | 能楽 |
| | 村上 良子 | 染織 |
| | 十四世面庄 面屋 庄甫 | 人形 |